



NEWSLETTER NO.36

Organic Geochemistry

The Japanese Association of Organic Geochemists

日本有機地球化学会

2002.12.25

TOPICS

日本有機地球化学会の発足に際して

日本有機地球化学会 会長
石渡良志

本会は本年 8 月の有機地球化学研究会の総会にて、「日本有機地球化学会」と名称を変更しました。有機地球化学談話会の発足 (1972 年) から 30 周年を迎えた時期でもあり、今回の名称変更は新たな発展方向を考える機会であります。

「談話会」の発足以来、本会は宇宙や地球の有機物について興味を持つ研究者、教育者、学生が最新の研究成果や情報を交換して互いの研究の発展を促すという役割を果たしてきました。現在多くの会員は地質学会、地球化学会、環境関連学会などホームグラウンドがあり研究発表の場を持っております。その上で、本学会への参加や年一回開く有機地球化学シンポジウムへの出席を意義あるものにするにはどのようにしたらよいでしょうか。特に若手の研究者や学生にとって、このシンポジウムは、どのような興味から有機物を研究しているのか、なにが分かったのか、どのような目標を持って研究しているか、などを会員同士が直接に語り合うことができる貴重な機会です。これによって各人の研究に役立てたり、さらに共同研究へと展開できれば素晴らしいことだと思います。今後のシンポジウムではこのような観点から、課題討論の設定やポスター発表を増やし、ディスカッションの時間を増やす工夫をして、シンポジウムを従来にも増して活用することが重要です。有機物の動き、ゆくえや、有機物と生物との関係を追及するために C、N、H、S など生元素の同位体を使った研究や基礎・応用技術の開発があります。これらは有機地球化学が地球科学や環境科学のなかで大いに貢献できる領域であります。また関連分野の研究者や学生との交流の場をつくるための工夫が必要だと思えます。

来年には日本地球化学会から地球化学講座全 8 巻 (培風館) の刊行が予定されています。第 4

巻「有機地球化学」、第5巻「生物地球化学」、第6巻「大気・水圏の地球化学」、第7巻「環境の地球化学」があります。来年9月にはゴールドシュミット国際会議が倉敷で開催されます。これには有機地球化学のセッションの設置も検討されているようです。また、国家的事業である深海掘削船「ちきゅう」を使った統合国際深海掘削計画（IODP; Integrated Ocean Drilling Program）が始動しており、有機地球化学の研究者の貢献も期待されています。これらでは本会の会員が様々な形で重要な役割を果たしています。若手の研究者が積極的に関与することを期待します。

最後になりますが、本会の30周年記念事業として会誌ROGの表紙の刷新が行われます。総説・論文集の発行も検討しております。会員の皆様からのアイデアを募っていますので学会事務局までよせて下さい。わが国における有機地球化学の研究集団として、地球科学や環境関連科学の発展に貢献すべくさまざまな活動を行いましょ（2002.10.5記）。

第20回有機地球化学シンポジウム（つくばシンポジウム） 開催される

有機地球化学研究会第20回シンポジウム（つくばシンポジウム）が8月1日～2日の2日間、産業技術総合研究所（旧工業技術院）の坂田将さんを世話人代表として産業技術総合研究所・共用講堂にて開催された。全国から55名の方々が参加され、23件の口頭発表および28件のポスター発表が行われた。また、懇親会としてバーベキューパーティーが開催された。お世話くださった坂田将さんおよび産業技術総合研究所の方々に、あらためて御礼申し上げます。



第20回有機地球化学シンポジウム(つくばシンポジウム)プログラム

口頭発表

8月1日(木)

座長: 講演1-5 武田信従、6-10 井上源喜

1. **木佐森聖樹・奥井明彦**(石油公団石油開発技術センター)・**石渡良志・石渡真理子**(地球化学技術研究所) 個別バイオマーカーの同位体組成測定のためのGPC前処理技術の検討
2. **力石嘉人・奈良岡浩**(都立大院理) 陸上植物の脂質分子合成系における水素・炭素同位体分別
3. **奈良英樹**(東工大総理工、科学技術振興事業団)・**吉田尚弘**(東工大フロンティア、科学技術振興事業団) バイオマス燃焼より放出される低分子量炭化水素の炭素安定同位体比の時間変動
4. **三木誠道・福島和夫**(信州大理)・**下山晃**(高知学園短大) 新庄堆積岩中の遊離態および結合態脂質成分の特徴
5. **白木雄介・千吉良晶子・福島和夫**(信州大理) 鹿児島県上甕島貝池堆積物中における脂質成分の鉛直変化
6. **関宰**(北大地球研)・**河村公隆・中塚武・若土正暁**(北大低温研) オホーツク海における脂質化合物の起源および沈降・分解・堆積過程
7. **堀内昇・福島和夫**(信州大理)・**池原研**(産総研) オホーツク海知床沖堆積物の有機地球化学
8. **愿山靖子・幸田英顕・福島和夫**(信州大理) Tangential Flow Ultrafiltration法による溶存高分子量有機物の分離
9. **早川和秀**(滋賀県琵琶湖研究所) 3次元蛍光分析による湖外来性溶存有機物の評価 - 中国雲南省 撫仙湖での事例 -
10. **福島和夫・依田新・高松冴子**(信州大理) 宮城県潟沼堆積物中の有機イオウ化合物

8月2日(金)

座長: 講演11-14 福島和夫、15-18 氏家良博
19-23 平井明夫

11. **山中寿朗**(九大院比文) 小笠原水曜海山海底熱水系表層堆積物のバイオマーカー組成について
12. **荻原成騎**(東大院地球惑星) 北海道小

平地域に分布する白亜系深海成石灰岩の地球化学的研究

13. **山内敬明・梅田聖美・豊留和香菜・村江達士**(九大院理地球惑星) 有明海沿岸干潟域と博多湾沿岸小干潟域の表層堆積物より抽出したフミン酸の特徴の比較と環境要因の抽出
14. **片瀬隆雄・上田眞吾・高春心・金掬碩**(日大)・**溝田智俊**(岩手大)・**下山正一・山中寿朗**(九大院比文)・**日野剛徳**(佐賀大)・**山下信義**(産総研) 安定同位体分析による有明海堆積物及びノリ試料の解析
15. **井上源喜**(大妻女子大社会情報)・**高松信樹**(東邦大理)・**河合崇欣**(名大院環境) バイカル湖の湖底堆積物による長期環境変動の見積もり
16. **中塚武・大西啓子・原登志彦・隅田明洋・光石大介**(北大低温研)・**栗田直幸**(地球観測フロンティア)・**植村滋**(北大フィールド科学セ) 樹木年輪セルロースの酸素・水素同位体比を用いた気候変動の解析
17. **山本正伸・島宗淳子・上島敏功・市川豊・大場忠道**(北大院地球環境) 茨城県鹿島沖海底コアのバイオマーカーからみた過去13.5万年間の古環境変遷
18. **村江達士**(九大院理地球惑星)・**籾加珠子**(九大院理、山形県テクノポリス・生物ラジカル研) リグニンの微生物分解の有機化学的および地球化学的意味
19. **三瓶良和・沢田順弘・羽田治・佐藤直彦**(島根大総理工) 広域・接触変成作用における花崗岩と泥質片岩中の“有機物”
20. **野本信也・萩原正義・中野善信・下山晃**(筑波大化学) 堆積岩中におけるメチルフェナントレンの異性化反応機構
21. **吉岡秀佳**(石油公団、日本学術振興会)・**武田信従**(石油資源開発(株)技研) レーザーマイクロパイロリシスを用いた石灰マセラルの有機物分析
22. **早稲田周**(石油資源開発(株)技研) バイオマーカーおよび炭素同位体組成からみた東南アジア産原油の分類
23. **奥井明彦**(石油公団石油開発技術センター)・**鳥居秀則**(出光興産(株)中央研) ダイヤモンド化合物の石油探鉱への応用

ポスター発表

- P1. 北島富美雄(九大院理)・北島義典・間瀬一彦(KEK)・中村智樹(九大院理)・小林英一(KEK)・漁剛(広大院理) X線吸収端微細構造(XAFS)スペクトルの有機惑星科学への応用
- P2. 田中美聡・山田桂大・吉田尚弘(東工大院総理工) 環境試料中酢酸の分子および分子内炭素同位体比分析法の確立
- P3. 三田肇・山村香織・下山晃(筑波大化学) 白亜紀-第三紀境界堆積岩中のヒドロキシ酸
- P4. 小園正樹・野本信也(筑波大化学) 堆積岩中のベンゾポルフィリンの起源
- P5. 野本信也・寺崎正紀・三田肇(筑波大化学) 高極性媒体中におけるアミノ酸の熱重合
- P6. 成島いずみ・坂田将・古宮正利(産総研) 角皆潤(北大院理) 東海沖第二天竜海丘表層堆積物柱状試料中の炭化水素バイオマーカー
- P7. Sorrosa, Joy M.(筑波大生物)・山本正伸(北大院地球環境)・白岩善博(筑波大生物) Rates

of production and degradation of alkenones as temperature change in a continuous culture of *E. huxleyi* and *G. oceanica*

P8. 菅原雅(弘前大理工)・安藤美代子(株ユニテック情報技術システム部)・氏家良博(弘前大理工) 胞子と花粉の加熱による有機熟成シミュレーション

P9. 金子信行(産総研)・樋口朋之・国末彰司(関東天然瓦斯開発株)・猪狩俊一郎・前川竜男(産総研) 水溶性ヨウ素・天然ガス鉱床の地質学・地球化学 - 南関東ガス田の例 -

P10. 小田浩・鈴木祐一郎(産総研) 岩手県久慈地域に分布する石炭の天然ガス・石油生成能力評価

P11. 鈴木祐一郎・坂田将・金子信行(産総研) 北海道産石炭および原油中の陸上高等植物指標バイオマーカー

第4回(2002年度)有機地球化学研究会研究奨励賞(田口賞)受賞者決まる

第4回有機地球化学研究会研究奨励賞(田口賞)は選考委員会で審議された後、8月1日に行われた運営委員会において、山中寿朗会員に与えられることが決まった。同日の総会において、石渡会長より同賞が授与された。

研究奨励賞(田口賞)第6号

山中 寿朗 会員

受賞題目:「島弧-背弧系海底熱水活動域における熱水性石油の研究」

山中寿朗会員は共同研究者とともに、鹿児島湾内の若尊海底カルデラから熱水現世堆積物を回収し、堆積物中に含まれる炭化水素等のピチューメンを有機地球化学的に分析し、これらの有機物が典型的な熱水性石油であることを証明した。これは島弧-背弧系の海底火山活動にともなう熱水性石油の最初の発見である。若尊カルデラからは、これらのピチューメンとほぼ同時期に生成したと推定される熱水起源の硫化鉱物脈の存在も報告されている。東北日本グリーンタフ地域では硫化鉱物主体の黒鉱鉱床と石油鉱床の空間分布が酷似しており、年代的にもよく一致することが指摘されているが、これまで熱水活動を通じて石油と黒鉱の同時生成が必然的に起こり得ること

を積極的に論じた例は数少ない。山中会員らの研究は、熱水活動という同一のシステムによって石油と黒鉱の両鉱床が同時に生成しうる可能性を示唆したもので、東北日本グリーンタフ地域の石油鉱床の成因を考える上でも重要な意味を持っている。山中会員はこれらの研究の中心的役割を果たしており、選考委員会は同君を研究奨励賞の受賞者に相応しいものと判断した。

(研究奨励賞(田口賞)受賞候補者選考委員会:氏家良博、坂田 将、高田秀重、奈良岡 浩、田上英一郎)



2002 年度 第 1 回日本有機地球化学会運営委員会報告

日 時：2002 年 8 月 1 日 11:40～13:20
場 所：茨城県つくば市 産業技術総合研究所
中央第七事業所本館 810 号室

出席者：(会長)石渡良志、(副会長)福島和夫、
(運営委員)氏家義博、奥井明彦、鈴木
祐一郎、坂田 将、平井明夫、武田信従、
山本正伸(事務局長代理)
<議長 - 石渡会長 書記 - 福島副会長>

議事 1. 2001 年度事業・会計報告

- 山本正伸事務局長代理により 2001 年度事業・会計報告が行われ、関連資料の総会への提出を承認した。

議事 2. 2002 年度事業・会計中間報告

- 山本正伸事務局長代理により 2002 年度事業・会計中間報告が行われ、関連資料の総会への提出を承認した。

議事 3. 研究奨励賞(田口賞)、有機地球化学賞(学術賞)専攻結果の報告と承認

- 田口賞選考委員会での選考経過が紹介された(氏家良博委員長報告)
その結果、2002 年度の田口賞候補者として山中寿朗会員(九州大学)が推薦された。運営委員会で審議し、受賞を決定した。
受賞題目「島弧～背弧系海底熱水活動域における熱水性石油の研究」
ニュースレターでの紹介は氏家選考委員長名で出すこととした。
尚、次年度以降、推薦書には生年月日を記載することとした。
- 学術賞は受付期間内に推薦がなく、今年度は見送りとなった。

議事 4. 2002 年度補正予算事業・会計計画および 2003 年度の事業・会計計画について

- 以下に示す事業案および事業遂行のための会計計画を総会に提案することを承認した。
- 1. 第 21 回(2003 年)有機地球化学シンポジウム開催を北海道大学(札幌市)にお願いすること(実行委員長 鈴木徳行会員)
- 2. 2002 年度後半期、ドメイン名取得により、研究会 ML・ホームページなどを事務局所在期間から学術情報センターなどに移設すること。これに伴い 2003 年度から会費納入を除き入退会などの事務処理、シンポジウム関連の情報伝達をオンライン化すること。また交渉事項は事務局に委任すること。
- 3. 事務経費としてアルバイト費 30,000 円を計上すること。
- 4. 学生会員の設置に合わせて会費徴収を 1 年単位とし、単年度処理に単純化すること。
- 5. ニュースレターの編集に若手会員 2 名を加え刷新をはかること。任期は 2 年とし、人選は事務局に一任すること。なおニュースレターは、秋は電子媒体で、春はシンポジウムがあるため紙媒体とすること。
- 6. 第 4 種郵便の扱いを受けるため、「ROG およびニュースレターを毎年定期的に刊行する」との文言を以下の通り会則に入れること。

< 現行規定 > 第3条 本会はその目的を達成するために次の事業を行う (2) 会誌 Researches in Organic Geochemistry の刊行と配布 (3) ニュースレターの刊行と配布
< 改定規定 > (2) 会誌 Researches in Organic Geochemistry を毎年定期的に刊行 (3) ニュースレターを毎年定期的に刊行

議事 5. 研究会の名称変更(将来計画委員会提案)について

- 「有機地球化学研究会」を「有機地球化学会」に発展的に変更することを総会に提案することを承認した。これにともない以下に示す通り会則の改定を行う。
< 現行 > 第1条 本会是有機地球化学研究会 (The Japanese Association of Organic Geochemists) と称する。
< 改定 > 第1条 本会は日本有機地球化学会 (The Japanese Association of Organic Geochemists) と称する。

議事 6. アドバイザーの設置についてについて

- アドバイザーの設置について、石渡会長から提案があり(提案資料は以下に示す通り)総会に提案することを承認した。
< 提案資料 > 本会の発展を図るため、本会にアドバイザー(仮称:名称については他に良いものがあれば変更する)をもうけ、随時意見やコメントを受けることができるようにする。
具体的には(1)アドバイザー(仮称)は当面、会長、副会長経験者および運営委員会が推薦した人とする。(2)ただし、運営委員会の審議への過度の干渉にならないように留意する。アドバイスを活用する具体方法は運営委員会の審議を経て会長、副会長、事務局で決める。
事務局から運営委員会に流すメールを会長、副会長経験者に合わせて送付する。例えば、MLを2つ作り、steering@ogeochem.jpには現在の運営委員会委員、adviser@ogeochem.jpは会長、副会長経験者のメーリングリストとする。事務局と会長、副会長は両方のメンバーとなり、適宜判断してこれらのMLを活用する(メンバー以外は投稿できないようにする)。しかし、steeringのメンバーはadviserに投稿できない。adviserはsteeringに投稿できない。事務局と会長、副会長だけが両方に

投稿できる。その他会長の求めに応じて意見を述べるができる。このようにすると、steeringだけの議論が可能となる。また、アドバイザーからのコメントを適宜会長、副会長、事務局が判断してsteeringに流すことができる。この判断は会長が行う。

議事 7. 30周年記念事業について

- ROGの表紙の刷新。また、論文集の発行など計画をスタートさせる。提案の方向で検討を進めることを承認した。他に案があれば事務局宛に連絡することとした。(*これについては現在進行中であり、意見がまとまり次第事前にお知らせする)

議事 8. 報告事項(電子会議で承認済み)

- 会則改正の確認を行った。
- 1. 学生会員新設に伴う研究会会則改定
会則第4条と第6条を下記のように改定することとした。
< 現行 > 第4条 本会の会員は次の2種とする。(1)正会員(2)賛助会員:本会の目的を賛助し、第6条に定める賛助会員費を納める団体または個人
第6条会員は次の種別に従って会費を毎年度前納するものとする。正会員:年額 2,000円 賛助会員:年額 1口 20,000円とし1口以上
< 改定案 > 第4条 本会の会員は次の3種とする。(1)正会員(2)学生会員(3)賛助会員:本会の目的を賛助し、第6条に定める賛助会員費を納める団体または個人
第6条会員は次の種別に従って会費を毎年度前納するものとする。正会員:年額 2,000円 学生会員:年額 1,000円 賛助会員:年額 1口 20,000円とし1口以上
- 2. 研究会ホームページからの入会申し込みに関わる会則改定
会則第5条を下記のように改定することとした。
< 現行 > 第5条 本会に入会を希望する者は、所定の申込書を本会事務局に提出する。
< 改定案 > 第5条 本会に入会を希望する者は、所定の申込書、または本会ホームページの所定の入会フォームを利用し本会事務局に申請する。
- 3. 入会手続き
運営委員が全員電子メールのアドレスを持っている現状をかんがみ、研究会への入会手続きは、今後下記のように簡素化しても良い

こととする。(1)承認の手続き：申し込みがあったとき、事務局は適宜、運営委員会のメール上で承認の賛否を問う(2)承認の可否について事務局が本人に知らせる。入会承認された申請者は会費の納入(前納)をもって入会手続きが完了する。(3)学生会員の入会申請に際しては、学生に指導教官がいる場合

には指導教官名を入会申請書(または、入会申請フォーム)に記入させることを義務付ける。以上の入会承認手続きは会則に明記せず、運営委員会の申し合わせ事項とする。

日本有機地球化学会会則(2002年8月2日 改定)

- 第1条 本会は日本有機地球化学研究会(The Japanese Association of Organic Geochemists)と称する。
- 第2条 本会はわが国における有機地球化学の進歩発展を図ることを目的とする。
- 第3条 本会はその目的を達成するために次の事業を行う。
- (1) シンポジウムの開催
 - (2) 会誌 *Researches in Organic Geochemistry* を毎年定期的に刊行
 - (3) ニュースレターを毎年定期的に刊行
 - (4) 研究奨励賞(田口賞)の授与
 - (5) 有機地球化学賞(学術賞)の授与
 - (6) その他必要な事業
- 第4条 本会の会員は次の3種とする。
- (1) 正会員
 - (2) 学生会員
 - (3) 賛助会員：本会の目的を賛助し、第6条に定める賛助会員費を納める団体または個人
- 第5条 本会に入会を希望する者は、所定の申込書、または本会ホームページの所定の入会フォームを利用し本会事務局に申請する。
- 第6条 会員は次の種別に従って会費を毎年度前納するものとする。
- 正会員：年額 2,000円
- 学生会員：年額 1,000円
- 賛助会員：年額 1口 20,000円とし1口以上
- 第7条 通常総会は会長が招集し毎年1回開く。必要に応じて臨時総会を開くことができる。通常総会においては次の事項の承認を受ける。
- (1) 前年度の事業・会計報告
 - (2) 当該年度の事業・会計中間報告及び計画
 - (3) 次年度の事業・会計計画
 - (4) その他運営委員会よりの提案事項
- 第8条 本会の役員として、会長 1名、副会長 1名、運営委員 10名程度、監事 1名を置く。
- 第9条 会長は本会を代表し、会務を総括する。副会長は会長を補佐する。運営委員は会務を審議し決定する。監事は本会会計を監査する。
- 第10条 役員は総会において正会員の中から選ぶ。
- 第11条 役員の任期は2年とする。但し再選は妨げない。
- 第12条 本会の会計年度は毎年1月1日に始まり12月31日に終わる。
- 第13条 本会に事務局を置く
- 第14条 本会会則の変更は総会で決定する。

- (1985年10月17日 制定)
- (1989年8月3日 改定)
- (1997年7月29日 改定)
- (1998年7月31日 改定)
- (1999年7月28日 改定)

2002 年度総会記事

表記の総会が2002年8月2日産業技術総合研究所共講堂大会議室2Fにおいて、奥井明彦氏を議長に選出して、開催された。総会では以下の事項が審議あるいは承認された。

(事業・会計報告および計画)

- 2001年度事業・会計報告(2001年1月1日～2001年12月31日)

・事業報告

- ニューズレターNo.33 (2001.5.7), No.34 (2001.11.27) 発行
- ROG Vol. 16 発行(2001.11)
- ROG 編集委員会・田口賞受賞候補者選考委員会(2001.7.18; 於志賀島)
- 学術賞受賞候補者選考委員会(2001.7.18; 於志賀島)
- 運営委員会(2001.7.18; 於志賀島)
- 総会(2001.7.18; 於志賀島)
- 第19回有機地球化学シンポジウム(2000.7.17～7.19; 於志賀島)
- ホームページの改訂

・会計報告

一般会計

収入の部(円)		支出の部(円)	
前年度繰越金	1,209,749	ROG印刷費(振込手数料込)	355,950
会費(賛助)	60,000	郵送料	49,740
会費(個人)	243,000	ホームページ作成	30,000
ROG収入	25,750	雑費	7,577
		次年度繰越金	1,096,052
利息他	820		
計	1,539,319	計	1,539,319

田口基金

収入の部(円)		支出の部(円)	
前年度繰越金	2,188,811	副賞	100,000
利息	315	メダル	10,752
		講師の交通費	45,000
		次年度繰越金	2,033,374
計	2,189,126	計	2,189,126

会計監査報告

有機地球化学研究会および田口基金の2001年度会計報告を、出納簿、領収書、郵便料金受領証、その他提示された証明書類に基づいて審査した結果、それが正確に処理されていると認められたので、ここに報告致します。

平成14年4月30日

監事 山本 修一 (印)

- 2002年度事業・会計中間報告および今後の計画

- ・事業中間報告(2002年1月1日～2002年8月2日)

- ニュースレターNo.35 発行 (2002.5.24)
- ROG 編集委員会(於電子会議)
- 田口賞受賞候補者選考委員会 (2002.7.12; 於電子会議)
- 学術賞受賞候補者選考委員会 (2002.8.1; 於産総研)
- 運営委員会 (2002.8.1; 於産総研)
- 総会 (2002.8.2; 於産総研)
- 第 20 回有機地球化学シンポジウム (2002.8.1 ~ 8.2; 於産総研)
- ・今後の計画 (2002 年 8 月 3 日 ~ 2002 年 12 月 31 日)
- ニュースレターNo.36 発行 (本会 ML と郵送を併用して配送する)
- ドメイン名の取得、ML の改訂
- ・一般会計中間報告 (2002 年 1 月 1 日 ~ 2002 年 7 月 31 日)

一般会計

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	1,096,052	ROG Vol.17 印刷費	399,000
賛助会費	20,000	送料	13,700
個人会費	214,000	雑費	3,662
ROG 収入 (ROG・論文集)	18,795	残高	932,676
利息	191		
計	1,349,038	計	1,349,038

田口基金

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	2,033,374	副賞	50,000
利息	52	前年度繰越金	1,983,426
計	2,033,426	計	2,033,426

- ・今後の一般会計計画 (2002 年 8 月 3 日 ~ 2002 年 12 月 31 日)

一般会計

収入の部		支出の部	
前期繰越金	932,676	郵送料	25,000
会費 (個人)	167,000	運営委員会会議費	10,000
会費 (賛助)	100,000	ドメイン名取得、ML 改訂	20,000
ROG 販売	2,000	雑費	3,000
ROG ページチャージ	124,000	次年度繰越金	1,268,176
利息	500		
計	1,326,176	計	1,326,176

- 2003 年度事業・会計計画 (2003 年 1 月 1 日 ~ 2003 年 12 月 31 日)

・事業計画

- ROG Vol. 18 発行
- ROG 編集委員会・田口賞受賞候補者選考委員会
- 学術賞受賞候補者選考委員会
- 運営委員会
- 第 21 回有機地球化学シンポジウム
- 総会
- ニュースレター発行
- 入会、シンポジウム関係のオンライン化

・会計計画

一般会計

収入の部	支出の部
------	------

前年度繰越金	1,268,176	ROG 製作	400,000
会費(個人)	216,000	郵送料(第四種郵便化)	20,000
会費(賛助)	100,000	事務局経費	40,000
ROG 収入	10,000	オンライン化、ML 経費	55,000
ROG ページ超過	20,000		
利息	500	次年度繰越金	1,099,676
計	1,614,676	計	1,614,676

全会一致で承認された。

会員現況

入会(2001.7.1~2002.7.15) 池原 実、齋藤 裕之、イエッサリーナ スペトラーナ、ラトナヤケナリン、小林 浩久、野本 信也、下川原 誠、松田 あゆり
 退会(一般会員)(2001.7.1~2002.7.15) 波多野 佳子、渡辺 雅治、和田 英太郎
 除名(一般会員)(2001.7.1~2002.7.15) 新谷 加代、依田 新
 新規賛助会員 横河アナリティカルシステムズ

現在の会員数は 125 名(一般会員 119 名, 学生会員 6 名), 賛助会員 3 社

PRIZE and AWARDS

有機地球化学賞(学術賞)2003年度受賞候補者推薦の募集

有機地球化学賞(学術賞)受賞候補選考委員会 委員長 下山 晃

有機地球化学賞(学術賞)受賞候補者選考規則により、同賞受賞候補者推薦を受け付けます。つきましては、下記をご参照のうえ受賞候補者をご推薦下さい。

記

候補者の資格: 有機地球化学分野で顕著な学術業績をあげた本会会員。

推薦方法: 本会会員による推薦
(自薦他薦を問いません)

推薦書類: 下記の項目について A4 サイズの用紙に任意の形式で記入。

- 1) 候補者の履歴書
(学歴, 大学卒から; 職歴; その他)
- 2) 推薦の対象となる研究題目及びその推薦理由
- 3) 研究業績目録
(推薦の対象となる主要な論文 10 編)
- 4) 推薦者氏名, 連絡先
締切日: 2003 年 5 月 31 日(土)(当日消印有効)
提出及び問い合わせ先:
日本有機地球化学会事務局気付 下山 晃宛
(住所、電話、メールは本ニュースレター最後のページ参照)

研究奨励賞(田口賞)2003年度受賞候補者の募集

研究奨励賞(田口賞)受賞候補者選考委員会 委員長 氏家 良博

研究奨励賞(田口賞)受賞候補者選考規則によ

り、同賞受賞候補者推薦を募集いたします。つきましては、下記をご参照のうえ受賞候補者をご推薦下さい。

記

候補者の資格：生年月日が1969年4月2日以降で、有機地球化学、石油地質学、堆積学の3分野のいずれかで優れた研究を行い、将来にも研究の発展を期待できる方。本会会員に限りません。募集の方法：本会会員の推薦による。自薦他薦は問いません。

推薦の方法：下記の事項をA4サイズ of 用紙に記入し、書留で郵送すること。記入の様式は自由。

- 1) 推薦理由および研究題目
- 2) 履歴書

INFORMATION

ROG 出版状況と投稿の呼びかけ

Researches in Organic Geochemistry 編集委員会

本研究会の機関誌「Researches in Organic Geochemistry」(ROG)は、1982年(Vol.3)から2年に1巻、1994年(Vol.9)から、年1巻発行されて、2002年までに計17巻(各巻1号)が刊行されました。

第17巻は予定通り、定期発行月の2002年6月に発刊されました。第17巻の掲載内容は、一般投稿論文が5本と学術賞、田口賞受賞者の記念論文あわせて3本、計8本でした。

編集委員会としては、原稿がそろった段階で定期発行月の6月を待たずに発行することを前提として作業を進めています。しかし最大の問題は、委員会が期待するようなペースでは原稿が集まらないことです。

前報からのくり返しになりますが、編集委員会としては、審査を厳しくすることよりも、充実した論文となるように適切な助言をすることを重視しています。とくに大学院生を中心とした若手の方の投稿に対しては、この点を配慮しています。お待ちしておりますので、期限にとらわれることなく、積極的にご投稿下さい。

投稿規定については Researches in Organic Geochemistry それぞれの巻末に掲載されています。今の段階での Vol.18 の編集日程は以下のとおりです。これは2003年6月に発行するとした

3) 研究業績目録

4) 研究論文の別刷り又はコピー

5) 推薦者の氏名と連絡先

締切日：2003年5月31日(金)(当日消印有効)

提出及び問い合わせ先：

〒036-8561 弘前市文京町3

弘前大学工学部地球環境学科 氏家良博

電話・ファックス：0172-39-3952、

e-mail: ujjie@cc.hirosaki-u.ac.jp

ときの目安ですので、早い投稿は大歓迎です。よろしくご協力下さい。

記

<Researches in Organic Geochemistry Vol.18>

1. 発行予定：2003年6月

2. 投稿締切：2003年1月10日(金)

3. ページチャージは8ページを超えた分につき、投稿者が刷り上がり1ページにつき5000円を負担する。

4. 投稿先：〒390-8621 松本市旭3-1-1
信州大学理学部物質循環学科 福島和夫 宛

5. 問い合わせ：

電話 0263-37-2502/ファックス 0263-37-2560

E-mail kfukush@gipac.shinshu-u.ac.jp

(なるべくE-mailでお願いします)

または最寄りの編集委員まで

(北大)河村公隆：

kawamura@lowtem.hokudai.ac.jp

(東京都立大)奈良岡浩：

naraoka-hiroshi@c.metro-u.ac.jp

(北大)鈴木徳行：

suzu@ep.sci.hokudai.ac.jp

(東京農工大)高田秀重：

shige@cc.tuat.ac.jp

今回は、今年度の有機地球化学研究会研究奨励賞（田口賞）を受賞された山中寿朗さんの紹介です。

深海底からヒマラヤまで

九州大学大学院比較社会文化研究院

山中寿朗

中学、高校と近所で化石を掘ったり夜な夜な星の写真を撮ったりしていた私は、1989年に最後の地質学科生として九州大学に入学しました。もともと、生物の進化や生命の起源に興味があり古生物学の研究を考えていました。ですが、人の名前と顔を覚えるのが苦手な私が化石の名前を覚えるなどということは出来ないと思い、早々にあきらめてしまいました。そこで、卒業研究は当時の石炭講座に入り、相原安津夫先生指導の元、干潟における硫黄の微生物サイクルと黄鉄鉱の形成機構について硫黄同位体をトレーサーとして研究を行いました。石炭地質でも、有機地球化学でもない私の個人的興味を卒業研究の課題として相原先生に認めて頂いたことで、石炭講座に身を置かせて頂くことになり、以後、有機地球化学の分野に身を沈めていくことになりました。

硫黄の微生物循環の課題に行き着いたのは、地球に生命が誕生した当時、エネルギー源として硫黄が重要であると考えられていたことに端を発します。以後の私の研究は、「初期生命のエネルギー源としての硫黄の役割の解明＝硫黄を使った現存する生態系の理解」という流れのもと、現在に至っています。

卒業論文、修士論文の研究課題は先に述べたとおり、干潟における微生物的硫黄サイクルを硫黄同位体をトレーサーに黄鉄鉱形成に至る経路を解明することでした。研究の内容は紙面の都合で割愛させていただきますが、この研究では定期的に現地調査とサンプリングを行い、硫黄同位体組成をはじめ各種安定同位体の測定技術を習得しました。この研究課題を論文にまとめる目処が立ったのを機に、博士課程進学後は研究対象をより生命起源の場に近づけるため、硫黄をエネルギー源として成立した生態系のある深海底の熱水活動域に移しました。

海底熱水活動域における研究は鉱床学的な研究が先行するため、硫黄同位体組成の測定は競争相手が多く、データも多く報告されていました。しかし国内では、有機地球化学分野の研究者がこの領域

には皆無だったため、バイオマーカーを用いた有機地球化学的手法によって、微生物構成やそのバイオマスの解明に取り組むことにしました。幸い、各種航海に参加することができ、西太平洋の複数の海底熱水活動域から堆積物試料を採取し、分析することができました。博士課程では主に脂肪酸バイオマーカーに注目して分析を進めましたが、博士課程2年の時に鹿児島湾の海底熱水系において、熱水性石油様炭化水素の生成現場を発見する機会を得ました。この発見は、日本近海はもちろん、島弧系海底熱水活動域では初めての発見でした。また、この石油様炭化水素生成は黒鉱様鉱化作用と同時同空間的に起こっており、東北日本の石油・黒鉱鉱床の地質学的関係を議論する上で重要な発見ができたと考えています。

現在は主に二つの課題に取り組んでいます。一つは、これまでの海底熱水系の研究を発展させたもので熱水系の海底面だけでなく、その地下に拡大するであろう微生物群集の解明です。これは、従来の潜水艇を用いた調査だけでは困難ですが、科学技術振興調整費課題の一つ、アーキアン・パーク計画によって、海底熱水系の掘削が行われ、直接海底下の試料を分析する機会に恵まれています。熱水系地下には、より始源的な生物からなる独自の生態系があると考えられており、その発見を目指しています。また、もう一つは、現職に移ってから取り組んでいるネパール・カトマンズ盆地で掘削された湖成堆積物コアを用いたモンスーン気候変遷史の解明です。有機地球化学指標や安定同位体組成を用いて、乾燥気候や古水温指標を検出し、陸上の堆積物に記録された高精度なモンスーン気候の発達史の解明に取り組んでいます。後者はこれまでの硫黄つながりではありませんが、アーキアンパークもカトマンズもコア試料つながりと言うことで、水深1400mと標高1300mのコア試料の分析に日々取り組んでいます。



(喜々として「しんかい2000」に乗り込む著者)

移動された会員の皆様へ事務局からのお願い

職場や自宅を移動された方は名簿作成と郵便物配布のために新しいご住所、電話番号、ファックス番号を下記までご連絡下さい。

E-mail アドレスをお持ちの方には、電子メールによるメールニュースを配信しています。可能な限り E-mail アドレスを事務局までお知らせいただきたくお願いします。

発行責任者 日本有機地球化学会会長 石渡 良志

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西 3-16-11

Phone: 03-5930-7634, Fax: 03-5930-2329, e-mail: rish@jcom.home.ne.jp

日本有機地球化学会事務局

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

北海道大学 大学院理学研究科 地球惑星科学専攻内

日本有機地球化学会事務局

Phone: 011-706-2730, Fax: 011-746-0394

e-mail: secretariat@ogeochem.jp (事務局員全員に配信されます)

郵便口座 00110-7-76406

(名義人 日本有機地球化学会)

普通口座 319-3463842 (北洋銀行北二十四条支店)

(名義人 有機地球化学研究会 鈴木徳行)

編集者 古宮 正利(産業技術総合研究所)、山田 桂大(東京工業大学)

e-mail: news@ogeochem.jp

日本有機地球化学会ニュースレターはホームページでもご覧になれます。

アドレス: <http://www.ogeochem.jp/>